

架け橋プログラムの基礎・基本その1…まずは、連携・接続する園の確定

- 小学校の管理職(校長先生)がイニシアティブをとり、校区内の全ての就学前施設や近隣の小学校に連絡し、連携・接続する園を確定しましょう。
- 幼保小の管理職同士が、持続的に話し合える体制を構築しましょう。管理職の異動があっても、幼保小の関係が変わらない体制の構築が大切です。

**Q いつから架け橋プログラムを始めればいいのですか？**

- A** 京都市としては、令和7年4月から全市での実施を予定しています。全ての市立小学校で幼保との連携・接続に取り組みます。

**Q 本校(小学校)は、どこの就学前施設と行えばいいですか？**

- A** 連携・接続の範囲は、小学校区内を原則としています。
小学校は、自校の校区内に所在する就学前施設と連携・接続を行います。
就学前施設は、自園の所在地を校区に含む小学校(原則1校)と連携・接続を行います。

Q 本校の校区には、就学前施設がないのですが、どうすればいいですか？

- A** 中学校区内の他の小学校と相談して、連携・接続する対象の就学前施設を調整しても構いません。
また、小中一貫教育の一環として、中学校区内の他の小学校と一緒に中学校区内の就学前施設と連携・接続を推進することも可能です。

Q 本校Aは小規模校で、校区内の多数の就学前施設との連携・接続は難しいです。どうすればいいですか？

- A** 校区内の就学前施設とまずは話し合いを行いましょう。
例えば、子ども同士の交流については全ての施設と同じように行うのではなく、ある交流はB園と、別の交流はC園と行い、来年度は違う園と実施する。
ただし、公開授業や公開保育など教育・保育の相互理解は全施設と行うなどの工夫をすることもできると思います。

**Q 本校は、これまでも校区外の就学前施設D園と連携を進めているのですが、どうすればいいですか？**

- A** これからもD園と連携を続けても構いません。これまでのつながりを大切にしてください。ただし、D園の意向確認やD園の所在地の小学校との連絡・調整は行いましょう。

Q 本園は、上記の小規模A小学校区内にある保育園です。本園では、A小学校に入学するより、違うE小学校に入学する園児が多いです。どうすればいいですか？

- A** このような場合は、入学児童の多いE小学校とも相談しながら、E小学校と連携・接続することは可能です。
まずは、小学校と就学前施設が話し合うことが一番大切です。



架け橋プログラムの**基礎基本その2…話し合う関係づくり**の構築!!

- 管理職同士での架け橋ミーティング(※)をはじめ担当者同士の会議など、話し合う関係づくりが一番大切です。立場を越えた大人同士のつながりづくりから始めましょう。
- 架け橋プログラムの持続可能な体制づくりの達成には、時間がかかります。地域の実態に合った方法で取り組んでみましょう。

※各小学校ブロック等における幼保小合同会議のことです。以下「架け橋ミーティング」と記載。



Q 何から始めればいいのか?

- A** それぞれの具体的な子どもの姿を共有し、目指す子どもの姿(育みたい資質・能力)などを話し合い、「共通の視点」を設定しましょう。その後、子どもの交流や公開保育・授業など取組の年間計画を立てましょう。



Q 就学前施設と小学校の日程調整が上手くいきません。どうすればいいですか?

- A** 幼保小には、それぞれの年間計画が既に決まっており、初年度の日程調整は難しいです。まず初年度は、取り組みやすいことや実現可能な取組(交流や公開授業、管理職同士や担当者同士の関係づくり等)から始め、2年目からは早めに年間計画を立てましょう。対面での実施が難しい場合には、会議や打合せはオンラインで行うなど開催方法を工夫することが有効です。

架け橋プログラムの**基礎基本その3…持続可能な取組**から始めよう!!

- 子ども同士の交流から始めている学校や公開保育・授業から取り組んでいる学校など、小学校や地域実態によって取り組み方は違います。学校事情に合った取組や持続可能な取組から始め、年々取組が充実・発展するような仕組みづくりが大切です。

Q 具体的にはどんな取組がありますか?

- A** 架け橋ミーティングでは、下記の取組が考えられます。
- ・ 目指す子ども像や育みたい資質・能力の設定
 - ・ 取組方針、年間計画の設定
 - ・ 公開保育・授業を通した保育・教育理解のための取組の企画
 - ・ 架け橋期のカリキュラムの作成(作成は任意です)



Q 上記の取組以外にどんなことに取り組みますか?

- A** 全ての小学校が半日入学を実施していますが、幼児期の教育を意識した半日入学や、スタートカリキュラムを工夫したりすることが考えられます。それ以外に下記のような具体的な取組が考えられます。
- ・ 入学前後での1年生の情報共有
 - ・ 学校だよりや園だより等の配布物の交流
 - ・ 幼保小の園・学校行事への参加・参観
 - ・ 幼保の公開保育や小学校の公開授業の開催と相互参加
 - ・ 公開保育・授業での事前事後の研修会の実施
 - ・ 互惠性のある子ども同士の交流の実施と事前事後の研修会の実施
 - ・ 校区内の幼保間のつながり(横のつながり)の構築



架け橋プログラムの基礎基本その4…主体的・意欲的に学ぶ保育・教育の創造!!

- 幼保小の架け橋プログラムのねらいは、保育・教育の相互理解と質的向上です。幼保小の連携・接続の取組を充実・継続させることが重要です。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、幼児教育と小学校教育のつながりを大切にし、それぞれの保育・教育の質的向上を目指しましょう。

Q 幼保小の架け橋プログラムに取り組むと、どのような効果が見られますか？

- 
- A** 先進的に取り組んでいる小学校から、下記のような報告を受けています。
- ・ つながりを大切にするスタートカリキュラムの視点を生かして授業の見直しができた。
 - ・ 幼児期の育ちを授業に生かすことができ、授業の工夫・改善につながった。
 - ・ 就学前施設の先生たちとのつながりが深まった。
 - ・ 互いの教育・保育の理解が深まった。
 - ・ つながったことで地域の子どもの実態や連携・接続の実態がより理解できた。

Q 幼保小の架け橋プログラムに取り組むことで、子どもたちにはどのような変化が見られますか？

- A** 先進的に取り組んでいる小学校では、下記のような子どもたちの変容が見られています。
- ・ 主体的に小学校生活に取り組む様子が見られる。
 - ・ 学習意欲の向上につながった。
 - ・ 優しさや思いやりの気持ちの育成につながっている。
 - ・ 自己肯定感の向上や自己発揮する姿が見られた。
 - ・ 異年齢の子どもや友だちと関わる力がついたように感じる。
 - ・ 早く小学校生活に適應することができたように思う。
 - ・ 登校渋り(行き渋り)の減少につながった。

Q 地域ぐるみで進めるためにはどのようにすればいいですか。また、どのような成果が見込まれますか？

- 
- A** 地域ぐるみで進めるためには、保護者や地域の理解が大切です。まず、架け橋プログラムやスタートカリキュラムの取組を知ってもらうことから始めましょう。具体的な取組や成果は、次のようなことが考えられます。
- ・ 幼保小とも園・学校だよりなどを活用して情報発信を行う。
 - ・ 保育・授業参観後の懇談会等で取組を紹介する。
 - ・ 学校運営協議会などで紹介する。
- [成果として…]
- ・ 保護者に安心感をもってもらえ、入学への不安解消につながる。
 - ・ 保護者・地域の園・学校理解がより深まる。
 - ・ 地域・保護者、そして園・学校の四者によるコミュニティが広がり、地域ぐるみの教育の発展につながる。

Q 取組を進める途中で、進め方などの悩みがあります。解決策はありますか？

- A** 京都市では、幼稚園籍・小学校籍の「幼保小架け橋コーディネーター」が架け橋プログラムの推進に関して様々な相談に応じます。
- また、コーディネーターは「架け橋ミーティング」や「合同研修会」の講師もできます。まずは、相談してみましょう。
- なお、「Q&A」は、今後各小学校ブロックで生じる課題や疑問を整理し、随時更新・発信する予定です。

